



平成21年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業

# 山形ワークライフバランス・ イノベーション

## 第2部 男女共同参画に係るアンケート結果報告書

work  
life  
balance  
innovation

# 山形ワークライフバランス・イノベーション

## 第2部 平成21年度男女共同参画に係るアンケート結果報告書

### 目次

平成21年度男女共同参画に係るアンケート結果ダイジェスト版	4
1. 調査方法	7
調査方法の概要	7
調査スケジュール	7
先行調査の検討	8
調査票の作成	8
質問項目	8
調査票の配布と回収	9
調査対象者と回収率	9
データ入力と分析	11
調査結果	
2. 回答者のプロフィール	12
性別	12
職種	12
性別と職種	13
所属部局・キャンパス	13
年齢構成	14
昨年度のアンケート回答の有無	17
3. ライフについて	18
婚姻状況	18
配偶者等の職業	21
家事・育児・介護の時間	21
子ども数と理想の子ども数	22
子育ての状況	23
4. ワークについて	27
仕事上のストレス	27
大学教員の研究・業務環境	28
教育研究活動の男女差はあるか	29

5. ワークライフバランスについて .....	32
仕事の阻害要因.....	32
仕事と生活の調和についての意識.....	33
仕事と家庭を両立するために必要な方策.....	34
6. 次世代の女性研究者・職員の育成 .....	36
女性教員が少ない理由について.....	36
出身地・出身校.....	37
山形大学内部の女性研究者育成について.....	40
7. 取り組みの周知度 .....	41
法律や本学の取り組みの周知度.....	41
キャンパスごとの周知度の違い.....	42
8. 自由記述の分析 .....	43
資料 1 平成 21 年度「男女共同参画に係るアンケート調査」調査票 .....	47
資料 2 アンケート依頼添書「男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）」.....	55
資料 3 基礎集計表 .....	56
資料 4 先行調査 .....	92
9. おわりに .....	94

# 平成 21 年度 男女共同参画に係るアンケート

## 結果ダイジェスト版

2010 年（平成 22 年）3 月 山形大学男女共同参画推進室

### 1. 調査概要

調査名：平成 21 年度「男女共同参画に係るアンケート調査」

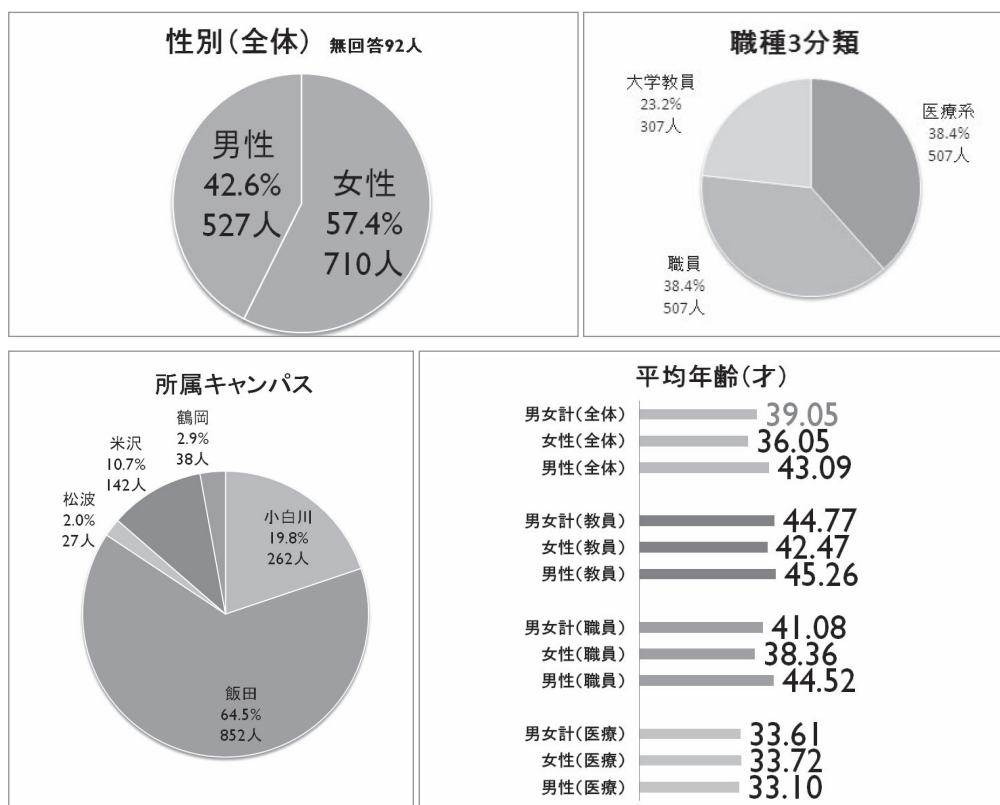
調査対象：山形大学の全ての常勤教職員と定時・短時間勤務職員

（2471 人配布、有効回答数 1329 人、回収率 53.8%）

調査時期：2009 年（平成 21 年）10 月～11 月

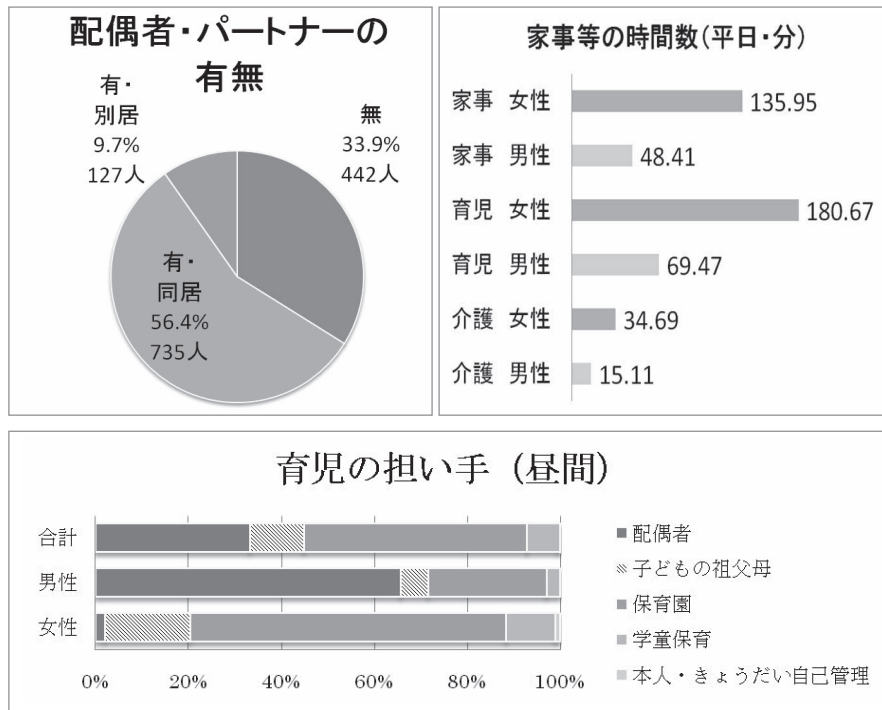
調査内容：仕事について、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、生活について、問 1 から 30 まで。

### 2. 回答者のプロフィール



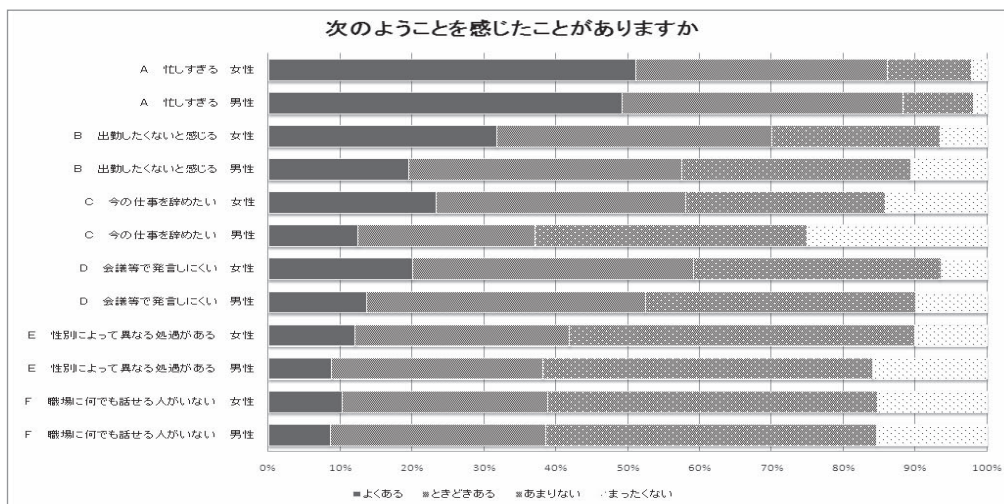
### 3. ライフについて

- ・配偶者・パートナーと離れて暮らしている教職員が 1 割近くいる。
- ・家事・育児・介護は女性が多くを担う傾向がある。
- ・育児の主な担い手は「保育園」、「配偶者」。それを「子どもの祖父母」が補完。多くの女性にとって「配偶者」（夫）は主な育児の担い手ではなく、「子どもの祖父母」に依存している。
- ・男性の配偶者・パートナーには無職・学生が多く、女性の配偶者・パートナーには常勤が多い。



#### 4. ワークについて

- ・男女ともに「忙しすぎる」など、仕事上のストレスを感じる人が多い。さらに女性は男性よりも、「出勤したくないと感じる」「今の仕事を辞めたい」などを感じる傾向がある。
- ・大学教員の教育・研究活動・会議等の業績については、分野や職階の影響はあるが、男女でどちらが高いということとはできない。



#### 5. ワークライフバランスについて

- ・仕事の阻害要因：どの職種・性別とも、時間や補助人員などに対し、主たる業務と関係のない業務など仕事量が多いことを上位に選択。さらに女性では育児・教育など生活関連の項目が選択される。
- ・固定的な性別役割分業観を持つ人は多くない。しかし、本学は女性が働きやすい環境が整っている、育児休暇を取得しやすい雰囲気があるという人は男女とも少ない。

- ・必要な両立支援の方策は、全ての項目で女性の方が男性よりも「そう思う」と答える傾向がある。

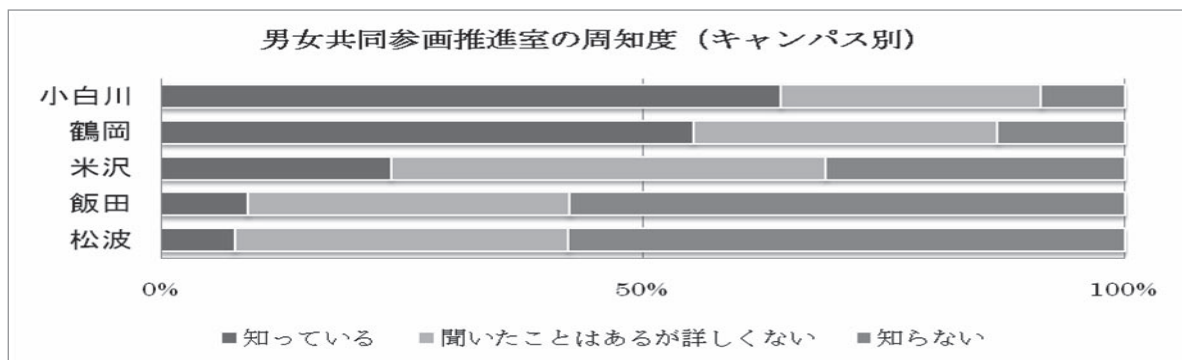
	教員・女性	教員・男性	職員または医療系・女性	職員または医療系・男性
1位	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務
2位	研究・業務の時間が十分取れない	研究・業務の時間が十分取れない	職場の人間関係	職場の人間関係
3位	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務の時間が十分取れない	研究・業務を補助する人がいない
4位	研究・業務費の金額	研究・業務費の金額	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務の時間が十分取れない
5位	職場の人間関係	管理的事務	家事	スペース・設備
6位	育児・教育	スペース・設備	育児・教育	管理的事務
7位	管理的事務(スペース・設備と同率)	職場の人間関係	管理的事務	研究・業務費の金額
8位	スペース・設備	育児・教育	スペース・設備	その他
9位	介護・看病	その他	妊娠・出産	育児・教育
10位	妊娠・出産	家事	介護・看病	家事
11位	家族の人間関係	介護・看病	その他	介護・看病
12位	その他	家族の人間関係	研究・業務費の金額	家族の人間関係
13位	家事	妊娠・出産	家族の人間関係	妊娠・出産
14位	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別

## 6. 次世代の女性研究者・職員の育成

- ・女性研究者が少ない要因は、「家庭と仕事の両立が困難」など働き方に関する要因が挙げられる。
- ・全教職員では65.6%が山形県の出身、41.5%が山形県の大学出身である。
- ・大学教員では、女性では27.7%、男性では21.4%が山形県の出身、山形県の大学出身者は、女性では39.6%、男性では34.0%である。
- ・大学院生のうち、男女とも4～5人に1人が研究職を志望していた(過去3年度)。

## 7. 取り組みの周知度

- ・法律や制度、本学の取り組みについての周知度は、「聞いたことはあるが内容に詳しくない」という人は多いが、「知っている」という人は多くない。
- ・周知度にはキャンパスによって差が有る。男女共同参画推進室の周知度では、本年度実施した活動が多かった小白川・鶴岡キャンパスで高い傾向がある。



## まとめ

- ・仕事が忙しく、ワークライフバランスを実現できない現状に不満を感じている人が非常に多い。その中でも家事、育児、介護などの家庭面での負担から、女性には特に負担感が強い。
- ・大きな負担を感じている人たちを含めた全ての教職員のワークライフバランスを改善することが必要である。